

オペレッタの取り組みから見えること
—平成 28 年度オペレッタ「かさじぞう」の取り組み—

久世 安俊

What can be seen from Operetta's approach
—Efforts of operetta "Kasa Jizo"—

Yasutoshi Kuse

Abstract

Through the operetta activities at our university, we focused on how students perceived expressions in childcare, thought, and what they are getting. Continuing from this research note, we suggest improvement of instruction.

Key words : operetta, musical expression,

はじめに

毎年2月初旬に実施している総合発表会に携わり今年で11年目となった。筆者の担当する「表現Ⅲ」（「劇あそび（指導法）」＊現在）におけるオペレッタ活動も現在進行形である。平成28年度の演目として10演目となる「かさじぞう」の取り組みを機に、保育における表現を学生はどのように捉え、考え、何を得ているのかに着目することとした。この研究ノートから今後の指導の改善を示唆する。

科目概要

「表現Ⅲ」は2年次の後期に開講される。配役、演奏のほか、道具・衣装のデザインと作成、情宣となるチラシ・ポスター、来場者へのパンフレット作成、ホールスタッフとの打ち合わせなど、半期間で発表に関わるほとんどの作業を学生たち自身で取り組む。演目についても毎回悩むが、学生からの意見も受けつつも、幼児を対象としていることや、年ごとの演奏能力、雰囲気考慮し、音楽劇として書かれた既成の作品を用いている。これ

までの演目を示す。

H19年度	日本昔話～三話～	H20年度	森の歌
H21年度	100万回生きたねこ	H22年度	ピノキオ
H23年度	伝説の島 ZZ	H24年度	サウンド・オブ・ミュージック
H25年度	はじめてのおきゃくさん	H26年度	うらしま太郎の鬼たいじ
H27年度	ピーターパンの冒険	H28年度	かさじぞう

これまでの活動内容と大きく変えたところは「オーディション制」を止めたことである。この「オーディション制」は、各クラス2グループの計4グループを作り、1ヶ月をかけグループごとに作品を作り上げてもらう。その発表をオーディションと位置づけ、投票と話し合いで配役を決定していく方法である。利点としては、適役の判断材料となること、学生全員が短期集中で作品内容が把握できる、また同演目で4種類の表現方法が得られるという点である。欠点としてはオーディション段階で燃え尽きてしまうということである。特に主役を逃した学生への対応は大変に神経を使う。卒業生への調査(久世 2011)でも4割近い割合で好ましくないと思っていた。平成23年度「伝説の島 ZZ」からリーダーを主に、全体での話し合いをもってすべての担当者を決めることにし現在に至る。

調査にあたって

・調査対象

平成28年度後期「表現Ⅲ」を受講した保育科2年生60名を対象。

・調査実施日

平成29年2月6日

・調査項目

1. 「かさじぞう」の発表についての評価
2. 配役を演じるにあたって心掛けたこと
3. 系の活動について
4. オペレッタの経験で得たこと
5. 今後、保育現場、教育現場で活かされるか
6. その他、意見、久世への要望

結果と考察

1. 「かさじぞう」の発表についての評価

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
52人(87%)	8人(13%)	0人(0%)	0人(0%)

1-1. 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（複数回答可）

	満足	どちらかといえば満足	
演目が気に入る内容であった	15人	1人	16人（27%）
役（係）が楽しかった	28人	5人	32人（53%）
仲間関係が深まった	45人	4人	49人（82%）
お客様の反響が良かった	23人	1人	24人（40%）
*その他	4人	1人	5人（8%）

*その他

- ・それぞれが頑張っていた。
- ・裏方としてみんなと関わって、このメンバーで良かったと思う。
- ・先生が喜んでくれた。
- ・役・係を通して自分の意見を言ったり、周りの意見を取り入れたり、それに対する批判を話し合うことで解決できたことが良かった。

全員が満足感を得てくれているようである。内容としては〈仲間関係が深まった〉が8割を占めている。自由筆記として「練習をしていくうちに良いものを完成させたい、という気持ちが大きくなり団結できた」「練習を重ねるごとに、今まで話したことのなかった友達と仲良くなれた」など、活動していく過程での人間関係や練習の雰囲気は大切な要因と考える。〈どちらかといえば満足〉と回答した学生からも「たくさんトラブルがあったが、みんなで作り上げることができた」「不満や納得のいかなこともあったが、本番がとてもなく、やりきったみんなはすごいと思った」と挙がっている。このように考え方の衝突は否めない中、どのように解決していくかもひとつの学びであり、そこを乗り越えてこそ達成感へとつながるものと考え。また自由筆記で「お客様の反応に助けられた」「温かい拍手が嬉しかった」「子どもたちの笑い声、最高」など挙がっている。どの仕事も対象があつてのものである。子どもの前に立つものとして大切な良い刺激だと考える。

〈演目が気に入る内容であった〉については3割弱の回答となった。「物語がとてもしき込まれる作品でとても感動した」と意見もあったが、和物で暗いイメージがあるようで、多くの学生に選択の理由を多く問われた。今後の参考にしたい。

2. 配役を演じるにあたって心掛けたこと（要約）

- ・声を大きく、お客様に届くように。
- ・キャラクターを明確にする。
：髪型　：衣裳　：歩き方　：地蔵の重さ　：話し方
- ・全体のセリフを覚えること。
- ・被らないような位置取り。
- ・台詞がない時のリアクション。
- ・みんなでやっているという気持ち、コミュニケーション。
- ・役に責任をもって、お客さんを楽しませようと思うことが大切。

ほとんどの学生が「声」の重要性、また「お客様に届ける」という方向性を挙げていた。言葉の明瞭さ、強弱、抑揚、スピードを駆使し表現してくれていた。現場における言葉掛けや読み聞かせへの活用につながると考える。「キャラクターの明確さ」についても挙げた。特に“おじぞうさま”“ネズミ”の役に付いては、どうすればネズミに見えるか？おじぞうさまはどう動くだろう？といった、イメージを膨らませ、試行錯誤する姿が思い出される。発想力や観察力の面でも刺激になったと考える。演出部側からは「被らない位置取り」が挙がっていた。お遊戯会や音楽会での子どもたちの配置を考えるうえで参考となるのではないだろうか。

3. 係の活動について

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
27人 (45%)	28人 (47%)	5人 (8%)	0人 (0%)

理由 (要約)

満足	
演出脚本	<ul style="list-style-type: none"> ・協力してできた、仲が深まった。 ・得意なところを活かし、お互いに苦手なところを補い合ってやり遂げた。 ・練習をこなすごとに濃く変化していく過程が見ることができた。 ・積極的にできた。意見を出し合った。
道具	<ul style="list-style-type: none"> ・協力してできた、じっくりと考えた。 ・パネルの作成、楽しかった。 ・できた時の達成感。
衣裳	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン、作業工程を考えるのが楽しかった。 ・出来上がるごとのみんなのテンションが忘れられない。
パンフレット ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>リーダーの指示が動きやすかった。</u>¹ ・しっかり写真を撮った。 ・字体や写真のレイアウトに苦労したが、良いのができた。

どちらかといえば満足	
道具	<ul style="list-style-type: none"> ・自身はあまり動けなかったが、いいものが作れた ・<u>作れる人の作業を見ることも勉強になった。</u>²
衣裳	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりに欠ける時期もあったが、出来上がってよかった。 ・<u>作業する人が偏っていた。</u>³ ・やらない人が目についたが、<u>リーダーの指示が的確</u>¹だった。 ・情報の共有がもっとあれば・・・。
パンフレット ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・やらない人に嫌気が、やるメンバーで頑張れた。 ・最終校正で見落としがあった。

どちらかといえば不満足	
道具	<ul style="list-style-type: none"> ・後半、遅刻が増えあまり協力できなかった。<u>長い時間グダグダせずにきっちりとした方がよいのでは。</u>⁴ ・自分の担当を全うできなかった。
パンフレット ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の担当から、途中でやらなくなった。 ・やる人と、やらない人がはっきりと分かれた。<u>リーダーとしての力のなさ</u>¹もあったのだと考える。 ・役割分担がうまくできなかった。

毎回、道具・衣裳・パンフレット作成を通して、音楽以外の面で見えてくる学生たちの能力には感心してしまう。創作意欲の高さだろう（満足・どちらかといえば満足）で9割以上を占めている。協力して一から作り上げた時の喜びが伺える。下線1の「リーダーの指示的的確さ」が挙がっている。各セクションにリーダーを置くことにしているのだが、今回は効率的に機能したと言える。その反面、〈どちらかといえば不満足〉でパンフレットリーダー自身は力の無さを反省している。下線2の「作れる人の作業を見ることも勉強になった」もとても興味深い。〈どちらかといえば満足〉下線3「作業する人が偏った」は1-1での「トラブル」「不満や納得のいかないこと」の要因と考える。〈どちらかといえば不満足〉下線4「長い時間グダグダせずにきっちりとした方がよいのでは」という回答も、練習・作業の進め方として考慮したい意見である。

4. オペレッタの経験で得たこと（複数回答可）

考えを伝える能力が付いた	39人（65%）
発想力が付いた	34人（57%）
度胸が付いた	26人（43%）
コミュニケーションがうまく取れる	35人（58%）
歌が上手に歌える	7人（12%）
声が大きくなった	20人（33%）
パントマイムが上手になった	1人（2%）
*その他	9人（15%）

*その他

- ・仲間関係が深まった。
- ・クラスの違う学生と仲良くなれた。衝突だけでなく、どうすればよくなるか、意見の交換が良い劇につながった。
- ・相手への思いやり、グループをまとめる力も付いた。
- ・話したことの無い学生と仲良くなれた。得ることが多かった。

- ・ピアノを担当。その場に合わせたタイミング、曲の雰囲気気が届くようになった。
- ・仲間が増えた、衝突もいい思い出となった。
- ・舞台スタッフの仕事ぶりが見れた。そこもあつての一つのものを作られていることを実感した。

自由筆記（要約）

- ・人前で声を出すのが苦手だったが、少し克服できた。
- ・大人になれた感じ。
- ・集団での活動の難しさ。
- ・リーダーとしての大変さを感じた。いろいろあつたが、みんなとの愛が深まった気がする。
- ・みんなで一つのことに頑張る楽しさと、難しさを経験できてよかった。
- ・声の出し方が分かった。
- ・グループがまとまることの大変さ。
- ・演じることの難しさ。しかしやりがい・達成感・感動を得ることができた。
- ・協力的、意見交換の大切さ。自分の役を想像する力。
- ・みんなで意見を出し合うこと、そこで発想する力。
- ・学年がひとつになった。リーダーの引っ張る力がよかった。
- ・ピアノでの関わり、責任感を感じた。
- ・自分から意見を伝えることができなかつたので、言わないでいるうちに「誰かが何とかする」と思うようになっていたが、今回を通して、想いを伝えることが大切だと思えるようになった。

「考えを伝える能力が付いた」65%、「発想力が付いた」58%、「コミュニケーションがうまく取れる」57%と半数以上の回答を得た。卒業生への調査（久世 2011）では5割を超える回答としては「度胸が付いた」51%のみであったが、伝達力、発想力での回答が増えている。その他、自由筆記は同様に達成感や対人関係に関する意見が多く挙げられた。「歌が上手に歌える」の割合は1割程度で音楽技能の上達という考えにはなかなか繋がっていないようである。特筆したいのが、下線のように舞台スタッフへの視点が挙がったことである。決して表に出ない、しかし欠かすことのできない重要な仕事である。裏があつての表である。とても嬉しい回答であった。

5. 今後、保育現場、教育現場で活かされるか（要約）

- ・子どものお遊戯、発表会での指導、進め方、道具づくり。
- ・保護者とのコミュニケーション。
- ・人前に立つ度胸。
- ・良いお手本として、子どもたちの前に立ちたい。
- ・前に立つものとして、牽引力と話し方を考えさせられた。

- ・子どもたちのいろんな面を伸ばす糧となる。
- ・子どもだったらどう表現するか考える。
- ・話し声への意識、一人一人の気持ちを考えて行動すること。
- ・友だちと協力する大切さや楽しさが活かされると思う。
- ・責任感が増したので、仕事に対する意識も変わってくると思います。気持ちを言葉にすることを活かされると思う。
- ・表現力であったり、社会で上手にふるまうための我慢や意見を伝える力が付いたので、活かせると思う。
- ・発想力、表現技術が前より分かった気がするので、子どもたちに伝えたり、楽しくするように工夫できると思う。
- ・声を大きくだし歌うこと・ハキハキ話すことは活かせる。
- ・一つのものを作り上げる喜び、発表会・行事でのアイデアに活かせる。
- ・子どもたちの発想を促し、保育者間で連携を取りながら一人一人が生きる表現を心がけることができる。
- ・協同力の大切さ、達成感を子どもたちと感動を共有したい。
- ・相手のことを考えて行動していけると思う。
- ・集団活動での動き、配慮。
- ・自分の意見をしっかりと伝えていく。
- ・自分の意見をなかなか言えない子どもたちのサポート。
- ・考えを伝えること、仲間と協力することを伝えていきたい。
- ・子どもの前での表情や声。

音楽活動に限らず、現場における行事の運営、企画、アイデアの提示、またそこに伴う保護者とのコミュニケーションと、学生なりにシミュレーションが伺える。また子どもの前に立つものとしての意識改革、そして子どもの秘めた想像力を引き出す術としても何かを得てくれたものとする。

6. その他、意見、久世への要望（特記）

- ・辛く、号泣することもあったが、良い経験となった。
- ・「かさじぞう」という演目にがっかり。華やかな感じがないが、結果やれてよかった。
- ・ツイッターで意見が伝わり、ネットの凄さ。
- ・何をやるにもリーダーが大事だと本当に思った。
- ・リーダーの重要性。意見、考えを言える環境づくりが大切。
- ・活動しない学生の評価も顧慮してください。
- ・自分の考えを出す、相手のことも考える…自分の成長を見た気がします。
- ・自分を表現することの難しさ、楽しさを覚えた。
- ・お客様から「感動した」「おつかれさま」と言われ、涙が出ました。お互い支えあうことですね。

- ・ダメ出しだけでなく、良い点も言ってくれて、やる気が保てた。
- ・とても面倒くさいと思っていたが、それ以上に、楽しく、仲間も増えた。
- ・意見のぶつかり合いが多かったが、本番に向けてまとまっていくことがいい経験。
- ・「裏方ありがとう」と言ってもらえて、思わず涙してしまった。役に立たず、楽な仕事だと言われていたので、自信を無くしていましたが…本当にうれしかったです。

学生の成長を感じるとともに、また新たな問題点が挙げてある。特に「ツイッターで意見が伝わり…ネットの凄さ」は最重要課題と考える。情報の伝達、共有の面では便利であるが、不満のつづき先としては恐ろしさを感じる。

おわりに—今後の展望

「かさじぞう」の発表は、これまでの作品の中で上位3作に入る出来と位置付けている。共通していることは、リーダーがしっかりと牽引してくれていたことである。回答でも挙がっていたように、とても印象に残っている。決して楽な取り組みではなく、面倒くさいと感じている学生がいるのも事実である。しかし、いくつもの壁を乗り越えていった先の達成感は学生たちに何らかの跡を残していると確信している。今回の調査で挙げた各プロセスの問題点を考慮し、学生の気質を捉え、絶妙な心の距離感を保ちつつ、衝動を引き続き提供し続けたいと考える。また、子どもたちへの表現活動の具体的な指導法の研究が大きな課題と考える。

参考文献

久世安俊 (2011) 「表現Ⅲ」におけるオペレッタの取り組みとその意義『近畿大学九州短期大学研究紀要』第41号 33-42頁